

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	美容×医療福祉「アピアランスサポーター」
資金分配団体名:	一般財団法人リープ共創基金
実行団体名:	特定非営利活動法人全国福祉理美容師養成協会
実施時期:	2020年2月～2021年2月
事業対象地域:	愛知県、東京都
事業対象者:	仕事が減った理美容師及びネイリストやエステシャンなどの美容関連職種の人材、またデパートなどに勤務している美容部員などの美容関連職種に従事していた若者

Version 3.3

日付: 2022年2月15日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>①訪問理美容師コース（3ヶ月） 基礎の美容技術のテストを行い、個別の訓練計画を作成、スタイリスト歴の浅い者でも、高齢者の施術に特化したカット（ショートやバリカン、寝たきりカット）等の技術研修で短期の技術習得を目指す、また、認知症対応や介護の基礎知識研修を実施。介護施設や在宅でトレーナーとともに訪問理美容実習を行う。</p> <p>②アピアランスサポーター2級コース（3ヶ月） 髪（医療用ウィッグ）・肌（カバーメイクや治療中に使用できるシールタイプまつげエクステ施術）・爪（ネイルケアやシールタイプネイル施術）に現れる副作用に対する美容ケアの技術と知識を全般的に学ぶ。</p> <p>※理美容免許有資格者は①③④の受講が可能、それ以外の者（ネイリストやエステシャン、美容部員など）は②のみ受講可能</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>コロナウイルス感染拡大の影響で、対面接触型のサービス業（在宅ワークが困難な職種）である美容室やネイルサロン、エステサロンにおいて、外国人観光客の売上が激減し、技術や接客のスキルが未熟な若手人材、またシングルマザーや子育て中の女性は、急な休校などに伴う欠勤などを理由に解雇の対象となりやすく、特に非正規社員の場合、シフトには入れず給与が減少しやすい。弊協会のサービス受益者である高齢者や患者は、コロナによる制限が続き、日々ストレスと孤独に晒され続け、QOLもADLも低下してきており、オンラインでのサポートや在宅への個別訪問などのニーズが拡大している。</p> <p>2020年事業への応募総数は87件（全員女性）そのうちの95%以上は無資格者であり、飲食やアパレルからの転職希望者が半数以上、スキル不足のみではなく、シングルマザー、子どもに障害等がある、外国ルーツである、自身に持病がある、LGBTなど多重の困難さを抱えている者が多く、応募動機はがん患者の支援など社会に役立つ仕事がしたいと前向きである。全体として、当初想定していたよりも応募者が5倍ほど多く、高いニーズがあることがわかった。特に、東京からの応募者数が多く見られる。美容師の有資格者は少なく、無資格の方の応募が多いが、研修等を受講して技術は向上していている。また、もともと得意だったSNS等を活かして宣伝等も実施し、介護者や患者からの問い合わせも増えている。キャリア個別面談や業務に対するフィードバックを受ける機会に乏しかった者が多かったため、月1回の個別面談、月3回以上のグループワークなどを研修に取り入れ、自身のこれまでの仕事の振り返りや棚卸しを行った結果、新たに適職を見だし、希望職種を変更した者も多く見られた。</p>
助成事業実施を通じた団体の成長に関する振り返り	<p>東京、愛知の2拠点での本事業実施を通して、トレーナーなどスタッフの連携が強化し、現場への権限の委譲を行うことで、組織スタッフ全体のプロジェクトマネジメントスキルが向上した。また、研修に使用する教材の整備なども進み、長年雇用が難しかったスキル不足者や障がいをもったスタッフなどに向けての研修内容が充実し、さらなる雇用機会の拡大に繋がっている。ガバナンス体制の整備が必要であることを気づかされ、資金分配団体からのサポートを得て規程類を整え、組織内に周知する流れを作ることができた。</p>

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ひとり親	就業困難	コロナ禍で収入が減少した若者の雇用	雇用した就労支援対象者数	13名	13名	応募も87名と多く、対象者に十分にリーチできたと考えられる
ひとり親	就業困難	支援プログラムを完了	途中離脱せず、予定されていたプログラムを完了した人数	13名	13名	緊急事態宣言等で研修の日程が遅れることはあったが、全員がプログラムを完了できた
ひとり親	就業困難	事業終了後の就労	事業終了時に就労している人数	7名	11名	正規1名、非正規1名、起業準備2名、フリーランス継続3名、弊協会継続雇用4名

ひとり親	就業困難	事業終了後の就労	雇用終了後半年後に就業している人数		※記載不要です。半年後に資金分配団体から実行団体へヒアリングします	※記載不要です。半年後に資金分配団体から実行団体へヒアリングします
受入企業・団体	その他	受入企業の売上増 ※該当する団体のみ	売上			
受入企業・団体	その他	受入企業での新企画実施 ※該当する団体のみ	実施した新企画数			

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>本事業実施のノウハウを活用し、2022年長久手市に開設予定の福祉複合拠点にて行政とも連携しながら事業を継続、美容業界団体、介護職の若手従業員の研修の有料請負等によって、介護職従事者へもアピランスサポートに関する研修を拡大し、スキルチェンジとして美容⇄介護職の双方向の転職の支援による人材の流動化も見据えている。</p> <p>高齢者や障害のある方、がん患者などが自分らしく地域で社会生活ができることを目指す。</p>
考察等	<p>休眠預金の活用により複数人を一気に雇用して研修することができ、同期の仲間ができるといったチームビルディング、役割分担を持った働き方などを実施でき、1人ずつバラバラに雇用するよりも有効にスキルを身につけてもらうことができた。本事業での実践をもとに、中間的就労におけるプログラムを採用～終了まで実施できたことは大きな経験となり、自治体とも連携しながら、自団体の事業として持続可能な形を模索することができた。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
1期：13名の方を採用	ほぼ計画通り	想定より資格保持者が少なく、採用期間が延びることはあったが、概ね問題なく進んだ
介護施設等での就労体験	遅延あり	コロナや緊急事態で東京では実施できず、名古屋のみでの実施となった
研修会の実施	計画通り	PCR検査やオンライン研修なども活用しながら、予定通り実施できた

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>複数の仕事を組み合わせて働いているような参加者もあり、一社に就職するだけでない就労のあり方なども開拓余地があると考えられる。また県をまたいでの参加者がいたり、緊急事態宣言で外出が難しくなることもあったりしたため、在宅でできる仕事にもニーズがありそうで、今後展開できないか考えている。現在は、福祉理美容の拠点を新たにつくるためのクラウドファンディングのページ作成に取り組んだりもしており、SNSの研修や仕事なども可能性があると思っている。</p> <p>また想定以上に複合的な困難要因を抱えている参加者が多かった。福祉窓口に今すぐつなぐというほどではないがボーダーラインにある人が多数いた。中間的就労にあたる参加者も多く、修了後に一般就職にどこまでつなげられるか、それ以外の選択肢をどう考えるかなどの課題は残った。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ長期化によって、CFW2020応募者よりもCFW2021応募者の方が生活に苦しい層が多くなっている。福祉理美容等に関心が高いというわけではなく、本当に苦しい層、未経験者の応募が多くなった。コロナによる収入減少というだけでなく、転職回数が非常に多かったり、もともと就労が難しかった人が増えている印象を受け、就労支援の難易度が上がっている。モチベーションを高い人を最小して就労トレーニングを実施しつつも、応募者をCFW以外の別の支援や福祉につなげていく必要性もある。 ・また就職先・転職先探しの伴走支援を行ったが、具体的に企業への斡旋・紹介まではできなかった。地域企業とのつながりをつくるなど、斡旋先の開拓は実施余地があったと考えている。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
BONDプロジェクト	女性支援を行っている団体等に声をかけ、CFW参加者への告知・集客に協力してあたることができた

IX. インプット ※事業完了月の経費精算書の金額を入力ください。

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	6,401,514	6,307,975	98.5%
	管理的経費	1,044,000	1,044,000	100.0%
	雇用関連費	7,679,046	7,679,046	100.0%
合計		15,124,560	15,031,021	99.4%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	募集チラシ1000枚
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	チラシにシンボルマークを掲載し、周知にあたった
4.報告書等	丸の内プラチナ大学での事例発表を実施した

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	外部監査	
	✓ 内部監査	
	実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	